

堀部安兵衛の名前

これまで長い日本の歴史の中で、何人の人間が生まれてきたか計り知ることはできない。そのほとんどが無名で歴史上から消えていく。私の名前も人物も後世に残ることはあり得ない。私の同僚、そして家族、孫、ひ孫くらいまで記憶していてくれるかも知れないが。

新潟県新発田市の小さな城下町を訪ねて驚いた。それは「堀部安兵衛生誕の地」とあったからだ。たしか彼は忠臣蔵に出てくる赤穂浪士四十七士の一人であるはずだが。どうしてこの地なのか不思議でならなかった。

越後国新発田藩溝口家家臣の中山弥次右衛門（200石）の長男として生まれる。19歳で江戸に出てからは天性の剣術の才で頭角を現す。その後同門の菅野穴郎左衛門が高田馬場にて果し合いとなった時、助太刀を買って出て相手3人を切り倒し一躍江戸で評判となる。これを知った赤穂浅野家家臣堀部金丸が婿養子を望み堀部安兵衛となる。ここまでであれば後世まで名が残ることは無かったに違いない。

ところが江戸城「松の大廊下」にてあてはならない事件が発生したのだ。主君・浅野内匠頭は日頃のストレスに耐え切れなくなり、あろうことか吉良上野介義央に刀傷に及び、即日切腹が命じられ更に赤穂藩まで取り潰しとなったのである。

1702（元禄15）年12月14日、赤穂浪士四十七士は主君の仇討を果たすべく吉良邸に討ち入りを実行する。堀部安兵衛は裏門から突入し大太刀を持って奮戦。見事吉良上野介義央を討ち取り本懐を遂げる。その後は赤穂浪士全員切腹を命じられ、享年34歳の生涯を終えることに。

忠臣蔵は300年を超える時間が経っても今なお、映画、テレビ、小説等で語り継がれている。その中で堀部安兵衛の名は永遠に忘れられることは無いであろう。 撮影 2013年春

